

近世絵画の中の『源氏物語』と「源氏絵」

——尼崎市立歴史博物館のコレクションを中心に——

- 1 日時 令和6年7月11日(木) 午後1時30分～3時30分
- 2 会場 尼崎市立中央北生涯学習プラザ 学習室 ABC (尼崎市東難波町2-14-1 TEL 06-6482-1750)
- 3 テーマ 近世絵画の中の『源氏物語』と「源氏絵」——尼崎市立歴史博物館のコレクションを中心に——
- 4 講演要旨

平安時代中期に紫式部が著した『源氏物語』は1000年をこえて読み継がれるとともに、様々な日本文化の中に教養の基礎として息づいています。この物語はすでに平安時代には詞書と絵で鑑賞されるなど、早くから絵画化が始まり、「源氏絵」とよばれる様々な絵画や図案が生み出されました。五十四帖に及ぶ長大な物語の各帖の一場面を選んで絵画化した源氏絵の色紙や扇面は、複雑なあらすじをイメージとして視覚的に伝えています。

尼崎市立歴史博物館所蔵作品から「新曲図扇面」と女流画家清原雪信の源氏絵作品を手がかりにして、江戸時代の絵画の中に『源氏物語』と「源氏絵」の受容や影響、変遷などを探ります。

こんなところにも『源氏物語』?! をさがしてみませんか。

- 5 講師 尼崎市立歴史博物館 学芸員 伏谷優子氏

プロフィール

平成2年から歴史博物館(当初は準備室)の美術・工芸分野担当学芸員として勤務、尼崎ゆかりの美術・工芸品調査を行い、関連する歴史資料も含めて特色や制作背景を探求しています。

研究分野: 日本文化史

- 6 定員 60名
- 7 申込先 尼崎市立歴史博物館へ電話かFAXで

電話 06-6489-9801 FAX 06-6489-9800

受付開始 令和6年7月5日(金)より

- 8 費用 会員 無料 会員外 300円(資料代)

主催 尼崎郷土史研究会

